

協 纂 報 日 藝

日本篆刻家協会 ニュースレター 2023.11.10 第15号
 発行 日本篆刻家協会 会長 尾崎蒼石 理事長 真鍋井蛙

日本篆刻家協会 563-0032 大阪府池田市石橋2-2-10-203 編集 常務理事 北田成磊

理事長挨拶

皆様その後如何お過ごしでしょうか。

今号のニュースレターでは二月～七月までの月例課題優秀作品の発表、そして令和六年の月例課題を掲載いたしましたので奮って応募してください。また、本年度も各地での本篆刻家協会の会員による個展や社中展が開催され、活発に活動されておられる様子が寄せられてきました。来年は協会設立四十周年でもあり、各地でも様々な計画をされておられることと思います。協会では皆様の活動に少しでもお役に立てればと思いい、研究誌『新篆美』が令和六年一月に皆様のお手元に届くよう考えております。先師梅舒適先生が篆社の研究誌『篆美』を発刊され、新資料や月例の優秀作等、手元に届くのが楽しみでした。『新篆美』により、皆様の篆刻熱が一層高まり、協会の結束力に繋がっていくことを期待したいと思います。

理事長 真鍋井蛙

二〇二四年（令和六年）月例課題一覽

月	課題	出典	意味
一月	吉且安	書伝	めでたく、且つ安らか
二月	心手相応	蕭子雲	精神と手腕が一致している
三月	古愚	論語	古くさい愚か者
四月	小自在	列子	わずかに心のままであること
五月	筆硯精良	蘇舜欽	筆や硯のすぐれてよいもの
六月	不染	孟子	本来の自己を保つこと
七月	人生一楽	蘇舜欽	人生最上の楽しみ
八月	大無畏	陀羅尼經	恐れのないこと
九月	得衆	論語	多くの人の心を得る
十月	不求工	自適	巧みになることを求めない
十一月	凝神静慮	歐陽詢	精神を集中して静かに思慮する
十二月	乙巳		二〇二五年の干支

2月課題 「君子林」

役員
(渡邊和琴選)



碧風



素翠



香代子



宗里



忠義

○萬谷碧風 木村容庸
○高越素翠 金井梅華
○藤村香代子 岡本浩一
○吉田宗里 浅野道男
○高橋忠義 永野翠翠
○寺田知了 北畑謙之
○下倉通水 内田真弓
千歳天空 計五人

三文字印です。君子を右に林を左にされた方が多かったです。文字も色々な書体を使われていました。役員の方からです。さすがに、作品もいろいろのしく拝見しました。印箋の枠の中に押印する位置のバランスの悪い方が数名あり残念でした。

常任委員
(長谷川帰海選)



極浦



信夫



散花



芳翠



竹扇

○奥島極浦 西岡美子
○松村信夫 井上秋鹿
○池田散花 真田玄松
○向畑芳翠 小松五岳
○福垣竹扇 鈴木桂峰
兼子悦浩 山本杏華
鈴木宏隆 池谷玉樹
宮澤神竹 計三人

このクラスになると画数の少ない印文だらけで、もう少し文字構成、辺線との接触、行間の間隔等印刷の作成に時間をかけ、少し工夫して欲しいです。全体に物足りなさを感じました。

委員
(長谷川拓石選)



紅霞



正義



勝山



智子



龍泉

○藤田紅霞 長谷川孝菊
○森下正義 尾畑翠庵
○大野勝山 吉田草心
○山本智子 本間輝衣
○池内龍泉 田中滋
木谷龍石 中島幸園
岩本凌慶 藤田勉
袴田恵理子 計三人

印影を見て思う事は、皆さん押し方が悪いのではなく、使っている印泥が悪いせいではないか、長期間使用しているものは、普段用として出来れば作品用として、新たに印泥を確保してはどうでしょうか。この様に分けると、事印影にダメージが少なく、綺麗な作品になります。

会員
(東尾高岳選)



紅玉



松苑



雪華



青榴



艸城

○池田紅玉 川野敏展
○川原松苑 浦田真樹
○渡部雪華 五十嵐子
○松島青榴 柴田聖風
○岸艸城 米澤春園
指輪桂舟 岡本玄嶠
高島俊一 佐野真美
計三十七人

よく、印泥のつけすぎを指摘されることがありますが、寒い時期は上手くつかない(カスしている)作が多いようです。印泥を温めると平らになりますが、石の方も温めてみて下さい。暫く手に持っているだけでも随分と違っています。

3月課題 「百卉含英」

役員
(井谷五雲選)



仁美



碧風



戲石



秀風



江涯

○片畑仁美 岡田桂舟
○萬谷碧風 松永六朗
○岡崎戲石 平中腹舟
○津田秀風 川崎白水
○浅野江涯 永野翠翠
○池田宗里 北畑謙之
金井梅華 真田玄松
山村千秋 計六人

印文が複雑なくらいか、美しいので、それ引上げられて、好ましいと思えるものを選出した。即ち、感嘆の初夏の風の如くあるものを、しかし工夫なく、平凡な感嘆せず、また野心的に過ぎて、清く、潮多きは特に小印で一考を要する。

常任委員
(古溝幽畦選)



幸恵



紅珠



竹扇



泰南



信夫

○安西幸恵 宮澤神竹
○田中紅珠 池田散花
○稲垣竹扇 中井榮子
○岡崎泰南 三宅溪月
○松岡泰南 永田乾石
○松村信夫 庄田鶴子
西岡美子 尾畑翠庵
眞田玄松 浦田紫雲
服部和彦 計三人

金文・小篆・印篆等、各々の作があり、練度の高さは、常任委員としての自負さを感じることができた。篆書を扱う者として、関連を追求することが肝要であることを自分自身に言い聞かせ取り組んで、今日この頃である。

委員
(松本雅至選)



勝山



美舟



草心



紅霞



恵理子

○大野勝山 大崎深白
○栗永美舟 岩谷川翠
○吉田草心 岩本凌慶
○藤田紅霞 大塚秋露
○袴田恵理子 庄田鶴子
森下正義 尾畑翠庵
中島幸園 浦田紫雲
高島俊一 佐野真美
計三十七人

比較的刻しやす、印文でした。小篆と印篆で刻されたものが多く、中に細文にしているものも二部見られましたが、この印文では敢えて細文にするのはどうかと思いましたが、湿然と刻すよりも何か艶となる印を意識して制作する、より作風質的効果が増すように思います。

会員
(池田泥異選)



幽篁



煌雪



紅玉



艸城



哲幸

○遠藤幽篁 柴田聖風
○池田泥雪 廣森勝竹
○池田紅玉 藤井郁子
○岸艸城 指輪桂舟
○吉田哲幸 岡本玄嶠
米澤春園 小出武
高島俊一 佐野真美
五十嵐厚子 計三十八人

「推し活」の勧め。「推し」をつくりましょう。篆刻もオタクみたいなので、すから。

4月課題 「春暉」

役員
(山下方亭選)



知了



管城



燕安



桂舟



雄山

流石に役員は佳作が多く
選び甲斐がある。眼に
するのは古拙印風、漢印
調になってしまいが二字
の為半通印式にした作も
ある。又従来の作に反発
するかの斬新な作もみら
れ、目指す方向性を期待
したい。

常任委員
(井後雅堂選)



悦治



秋鹿



雪峰



極浦



榮子

二字の課題というこ
縦に二字入れた作品も多
く見られました。また
二字ともに「日」が付
ており、どう変化させ
かに苦勞のあとが見られ
ました。うまく調和させ
た作品が佳作となりました。

委員
(伊佐治祥雲選)



凌慶



翠鹿



啓志



玲風



真紀子

今回は二字で印様を用
いた落し着いた印が多くみ
られた。た中には余白を狙
い過ぎたものや、余白を
強調し過ぎたものも数点
あった。印紙押印が雑な
ものもあり最後の仕上げま
で細心の注意を払って
ほしい。

会員
(石原豊玉選)



正樹



真咲美



蘇晨



紳城



紅玉

「日」の扱いに注意!!
二字課題 布字構成考慮
見られる。白文の半通印に
佳作が。欲をいさへう少
し、奏、漢の古墨の趣
があれば、同字の扱いに一
考。

5月課題 「燕雁代飛」

役員
(尾崎蒼石選)



朱華



桜洲



耕碩



龍石



明

今回の審査で感じた事は
応募作品全体のレベルが向
上していると言えま
す。これは出品皆さんの
努力の結果でしょう。自
ら考え、自か制作するこ
とが如何に大切であるか
と云うことで、頑張っ
て下さい。

常任委員
(大村雪陵選)



極浦



悦治



秋鹿



散花



玉峯

各々文字の粗密に変化が
少なく比較的配字はしや
すい、それがゆえにバラ
ンスの良し悪しが問われ
る課題です。四字が良く
呼吸をとり、自然さが際
立つた字形の選出、布字
刀法がなされた作品が上
位に多く見受けられまし
た。

委員
(奥田農生選)



幸園



翠鹿



孝翔



紫斐



秀峰

緊要三文字、疎画一文字
の比較のまめ易い印文
です。「代」を複雑にして
四文字のバランスをとっ
た作が多い中、「代」の空
白を生かして朱白をはっ
きりさせた作品が心に残
りました。

会員
(梶川久美子選)



哲幸



雪華



幽篁



春園



泰山

今月は四字印で佳作が多
く、課題と一生懸命に取
り組んだ作品が見られま
した。また、誤字のため
残念なのが数点、語順
の間違い一点、心当たり
のある方は雁の佳を確認
下さい。

※「燕」と「宴」の金文を区別する説もあります。是非一度調べてみて下さい。

6月課題 「穆然」

役員
(真鍋井蛙選)



戴石



霞舟



知了



謙之



弘深

- 岡崎巖石 古野燕安
- 平中腹舟 松永六朗
- 寺田知了 三枝龍泉
- 北畑謙之 浅野江涯
- 高野弘深 津田秀風
- 福谷華紅 岡本皓爾
- 武田紫芳 田原吳山
- 名倉克彦 計六〇人

二文字の課題でしたので、甲骨・金文・土壘・印章・小篆等々幅広い表現の作風がありました。一ツ気になりましたのは「穆」字、禾へんを木へんに作る人があつたのですが、印章にはこの例を見ますが小篆では禾を使用して下さい。

常任委員
(北田成嘉選)



陽苑



散花



秋鹿



五岳



乾石

- 南田陽苑 鈴木桂峰
- 池田散花 兼子悦治
- 井上秋鹿 三宅深月
- 小松五岳 中井繁子
- 永田乾石 奥島徳浦
- 山口藤華 松村信夫
- 池谷宝樹 田中紅珠
- 西岡眞美子 計三〇人

字書の文字をたまたま並べても作品にはならず、調べた文字を一度自分自身で消化する過程が必要です。そして消化するためにすべきことは書くことにはほかなりません。それができてはじめて「穆然」たる魅力が備わり、作品たり得るのです。

委員
(草田翠苑選)



孝翔



滋



清琴



惠理子



凌慶

- 長川孝翔 木谷鈞石
- 田中滋 境山正甫
- 大塚清琴 大野勝山
- 袴田惠理子 高木啓志
- 岩本凌慶 高木啓志
- 木村行石 喜岐玲風
- 中本管玉 中本崇
- 山中徹人 計三六人

今回は何時もより、文字の間違ひが多々残念な結果となった。のぎへんがさへんになつていたり、初歩のミスが目立ち、押印で失敗の作品も目受けられた。印稿でもう少し注意深く、最後まで緊張感を持っていただきたい。

会員
(熊本夕生選)



蘇晨



春園



青榴



哲幸



武

- 川野蘇晨 城本朴園
- 米澤春園 池田紅玉
- 松島青榴 高橋子路
- 吉田哲幸 秋吉隆夫
- 小出武 横山雪雪
- 渡部雪華 五車厚子
- 廣藤勝竹 高島俊二
- 國本玄嶺 計三四人

然の八面目「」が無い作品など、誤字作品が多くなつた。なかには然と刻した作品もあつた。また佳印がかなり少なく、どれだけ該当者無しと記入しようかと思つたことか。

7月課題 「知一不知二」

役員
(喜多芳邑選)



章石



華紅



香代子



千秋



忠義

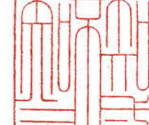
- 古瀬章石 平中腹舟
- 福原華紅 浅良朱華
- 藤村香代子 北口青咲
- 山村千秋 北畑謙之
- 高橋忠義 安井芳泉
- 木村香蘭 高野弘深
- 岡崎巖石 中本管城
- 片畑仁美 計五六人

この様な印文では構成を考えた印稿が重要となるよ。二と「知」の扱ひ、繰り返す「知」の文字の工夫、著しい文字の転用はかたて仇となす。印のサイズを小さくして盛画のサイズを回避すべきところが返って不確実な線になる作も多くあつた。

常任委員
(田中修文選)



紅珠



五岳



貴美子



和彦



陽苑

- 田中紅珠 神純雅
- 小松五岳 川榮玉峯
- 西岡眞美子 池谷宝樹
- 服部和彦 松村信夫
- 南田陽苑 白幡雪峰
- 山口藤華 奥島徳浦
- 池谷寶樹 鈴木桂峰
- 井上秋鹿 計六六人

今回は疎の文字が多く構成に苦慮されたと思いま。二と「知」の扱ひ、繰り返す「知」の文字の工夫、著しい文字の転用はかたて仇となす。印のサイズを小さくして盛画のサイズを回避すべきところが返って不確実な線になる作も多くあつた。

委員
(戸出九廬選)



凌慶



智子



勝山



清琴



秋露

- 岩本凌慶 高木啓志
- 山本智子 森下正義
- 大野勝山 喜岐玲風
- 大塚清琴 山中徹人
- 大塚秋露 境山正甫
- 浦田紫芳 枝廣樹芳
- 田原眞紀子 藤田紅霞
- 計三七人

五文字の印文、画数の少ない文字、同じ様な文字が二組と難しい課題に対して文字の大小を付けた、画数の多い文字を選択したりと苦労された様に思われます。

会員
(中村葉舟選)



紳城



武



玄嶺



松苑



泰山

- 岸紳城 遠藤幽篁
- 小出武 五十厚子
- 國本玄嶺 佐野咲美
- 川上原苑 西村奇秀
- 藤田泰山 高島俊二
- 秋吉隆夫 樺山煌雪
- 川野蘇晨 奥本早苗
- 広藤勝竹 計三七人

全体的に課題に真摯に取り組んでいる姿が作品から見受けられ、多彩な構成の印があつた。朱文の作品の方が多く、本来はもう少し細身の仕上げではないかと思われる印、夏場に使用する印泥に気配りの必要ありと感した。

**草田翠苑書法篆刻展
併催 師春室文房雅玩展報告**

七月八日(土)から十七日(月)まで、草田翠苑書法篆刻展併催師春室文房雅玩展を富山県小矢部市「アートハウスおやべ」にて開催致しました。今年の中島春緑先生に師事して三十五年目の節目で、中国の書家の真筆等「實事求是」の中島春緑先生の教えを胸に、書や篆刻に向き合ってきた証を伝える好機となりました。書と篆刻三十一點、甲骨文字・金文・隸書・行書を濃・淡墨と多彩な線質と流麗な筆致でまとめ、中島春緑先生も特別出品で花を添えて頂き、三十五年目を象徴する見事な個展となりました。



▷尾崎蒼石先生御夫妻と草田翠苑先生(左端)

第三十回篆刻と書 遠邇篆会展報告

六月七日(水)から十一日(日)までの五日間、磐田市立中央図書館で開催しました。

会員の作品は、各自の自由なテーマで数点ずつ、合計で篆刻十三点、書五点を展示しました。また、分刻は石川丈山「富士山」に取り組みました。壁面に作品を、机上に印材を展示し協同して作品作りをする楽しさを改めて味わうことができました。加えて、本会員原田氏指導による小学生の刻した姓名印の展示も好評でした。

日本篆刻家協会会報、入会案内も用意しました。来場者数は、二四七名でした。篆刻に高い関心を持っていただけたことを励みに、さらなる精進をして参ります。



▷展覧会の様子

第九回寧和展報告

七月二十一日(金)より七月二十三日(日)まで生駒市芸術会館・美楽来においてコロナ禍にて差し控えていた作品展を五年ぶりに開催した。猛暑の中、理事長をはじめ参観いただいた協会の先生方に感謝いたします。臨書・摸刻・変形印というテーマと各々の取り組みができたことにより、それなりの成果を見ることができました。



▷展覧会の様子

八月四日から六日までの三百間、原田の森ギャラリー東館二階にて社中展「明分篆會展2023」を開催致しました。厳しい暑さの中、約三百名の方々がお越しくださいました。初めて半切作品に挑戦された方、初めて二寸半の石での篆刻作品に挑戦された方、会員それぞれが一生懸命に取り組みました。

今回は特別陳列として黒田玉洲先生所蔵の「資料としての木簡」を展示。篆刻体験も行い、小学生は夏休み自由研究体験として、年配の方は長年したかったとの感想をいただきながら二十四名の方が参加してくださいました。今回の反省を基に、来年は更に成長した作品発表ができるように研鑽に励もうと会員一同心新たにしております。ご高覧くださいました多くの方々に感謝御礼申し上げます。



▷ 木簡特別の展示と会場の様子

九月二十二日（金）から二十四日（日）までの三日間、高岡市美術館市民ギャラリーに於いて開催いたしました。

今年は、富山県内の観光名所等を分刻し、一枚のパネルにした事やお釈迦様の十大弟子について短冊に刻したものの等多数の作品を展示し、二〇〇名程の人達に観賞して頂きました。熱心に観られる方もおられ来年に向けて気持ち新たにしました展示会でした。



▷ 展覧会の様子

●今後の主な予定

・第十四回 中央研究会

日時 二〇二三年十一月二十六日（日）
十時～十六時半まで（九時半から受付）
場所 兵庫県民会館 十一階
パルテホール
〒五五二一〇〇〇五
神戸市中央区山手通四一十六一三
〇七八一三二一〇二一三一
五〇〇〇円

参加費用

《注意事項》

※朝七時での暴風警報の場合は中止となります。

※昼食については各自でご用意ください。

会場内にはレストランはありません。

会場内での飲食は可能です。

※実技準備は必要ありません。

※泊が必要な方は各自ご予約ください。

・総会

日時 二〇二四年一月七日（日） 十四時半～
場所 JRホテルクレメント高松
〒七六〇一〇〇一
香川県高松市浜ノ町一

〇八七一一一〇一〇一
〇八七一一一〇一〇一

・新年会

日時 二〇二四年一月七日（日） 十六時～
場所 JRホテルクレメント高松

■展覧会のご案内

北枝篆会会員展

十一月二十九日（水）～十二月三日（日）
市民工房うるわし

第十五回 櫻文会 特別展観 前田黙鳳の書画

十二月十五日（金）～十七日（日）
兵庫県民会館アートギャラリー

第二十一回 蒼文篆会展

特別陳列 中国近代名家篆刻作品

十二月二十三日（土）～二十四日（日）
大阪産業創造館三階マーケットプラザ

※社中展等、開催予定がございましたら事務所までご連絡ください